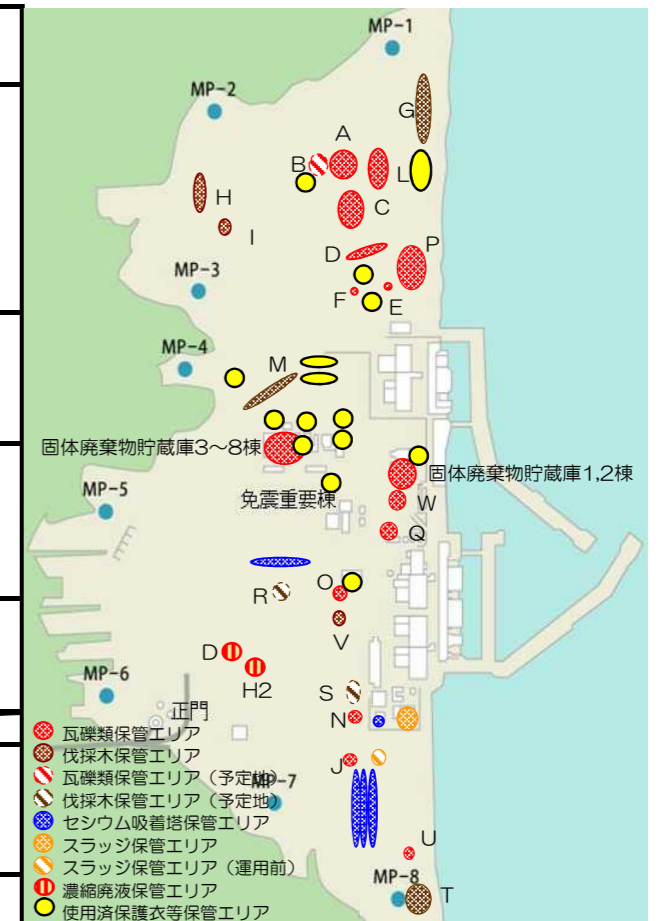


瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2016.4.30 時点)

分類	保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量*1	前回報告比*2 (2016.3.31)	変動*3 理由	エリア 占有率	保管量/保管容量 (割合)	トピックス		
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	C	屋外集積	0.01未満	54,900 m ³	-800 m ³	①②③④⑤	87%	122800 / 177900 (69%)	・エリアCの破砕コンクリートの再利用実施。 ・フランジタンク解体片 エリアPにて一時保管中。(2015年6月15日~) 2016年4月末時点で191基(コンテナ)保管。	
		F	屋外集積	0.01未満	5,900 m ³	+300 m ³	⑥	78%			
		J	屋外集積	0.02	4,000 m ³	+400 m ³	⑥	84%			
		N	屋外集積	0.01	4,200 m ³	0 m ³	—	42%			
		O	屋外集積	0.01	26,200 m ³	0 m ³	—	95%			
		P	屋外集積	0.01	26,900 m ³	+1,200 m ³	②	42%			
	シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01	2,600 m ³	0 m ³	—	88%	35100 / 57300 (61%)	・エリアE、エリアPの瓦礫類について、リスク低減の観点から 容器収納へ移行中。	
		E	シート養生	0.02	6,700 m ³	+400 m ³	①③⑤	42%			
		P	シート養生	0.01	4,800 m ³	+1,600 m ³	①	53%			
		W	シート養生	0.02	21,000 m ³	0 m ³	—	72%			
	覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1~30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m ³	0 m ³	—	100%	20300 / 27700 (73%)	・覆土式一時保管施設(第3槽) 瓦礫類収納完了:2015年8月21日 仮覆土:2015年10月26日完了	
		A	仮設保管設備	0.35	1,700 m ³	微増	—	25%			
		E	容器*4	0.02	300 m ³	微減	—	18%			
		F	容器	0.01未満	600 m ³	0 m ³	—	99%			
	固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器*4	0.03	6,900 m ³	+100 m ³	③⑦	57%	6900 / 12000 (58%)	・主な瓦礫類は、1~3号機建屋で発生した高線量瓦礫類。	
		合計(ガレキ)			185,200 m ³	+3,000 m ³	—	67%			
	伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	H	屋外集積	0.01未満	14,700 m ³	0 m ³	—	74%	64600 / 81500 (79%)	・工事により発生した幹・根を随時受入中。
			I	屋外集積	0.01	10,500 m ³	0 m ³	—	100%		
			M	屋外集積	0.01未満	39,200 m ³	+100 m ³	⑧	87%		
V			屋外集積	0.03	200 m ³	+200 m ³	⑧	3%			
一時保管槽 (枝・葉)		G	伐採木一時保管槽	0.01未満	8,500 m ³	+1,200 m ³	⑨	65%	19600 / 24900 (79%)	・伐採木一時保管槽(エリアG) 追設完了。	
	T	伐採木一時保管槽	0.01	11,100 m ³	0 m ³	—	94%				
合計(伐採木)			84,200 m ³	+1,400 m ³	—	79%					
保護衣	屋外集積	容器	0.06	69,000 m ³	-1,300 m ³	⑩⑪	93%	69000 / 74500 (93%)	・雑固体焼却設備の運用開始(2016年3月18日) ・使用済保護衣等焼却量 299t(2016年4月末累積) ・焼却灰のドラム缶数 0本(2016年4月末累積) (雑固体焼却施設から固体廃棄物貯蔵庫への搬出準備中)		
				合計(使用済保護衣等)			69,000 m ³	-1,300 m ³	—	93%	



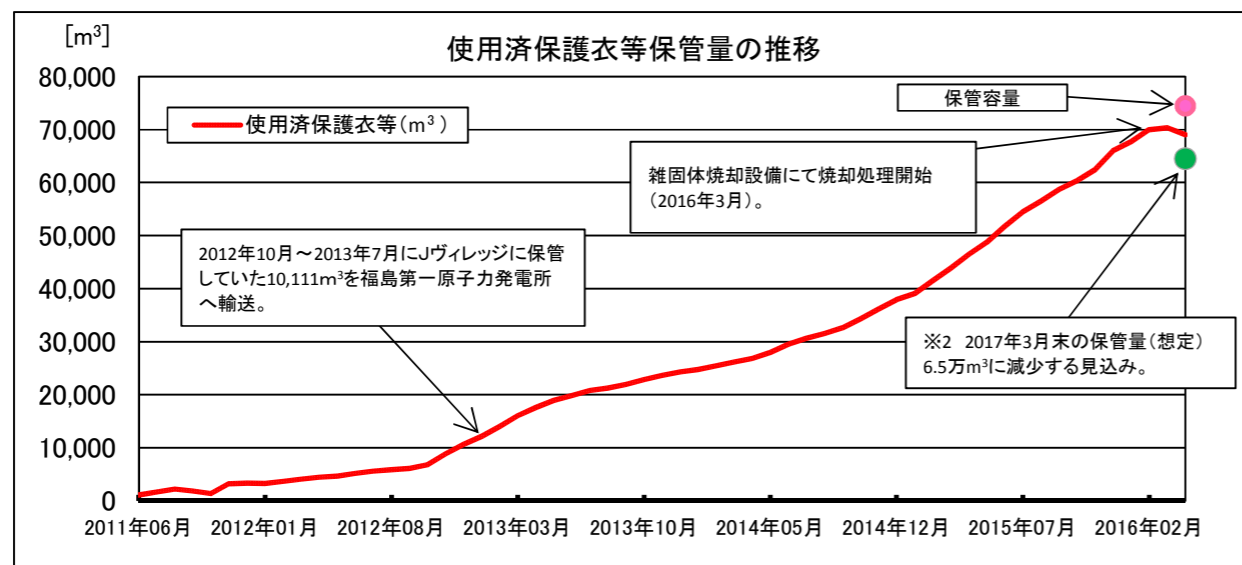
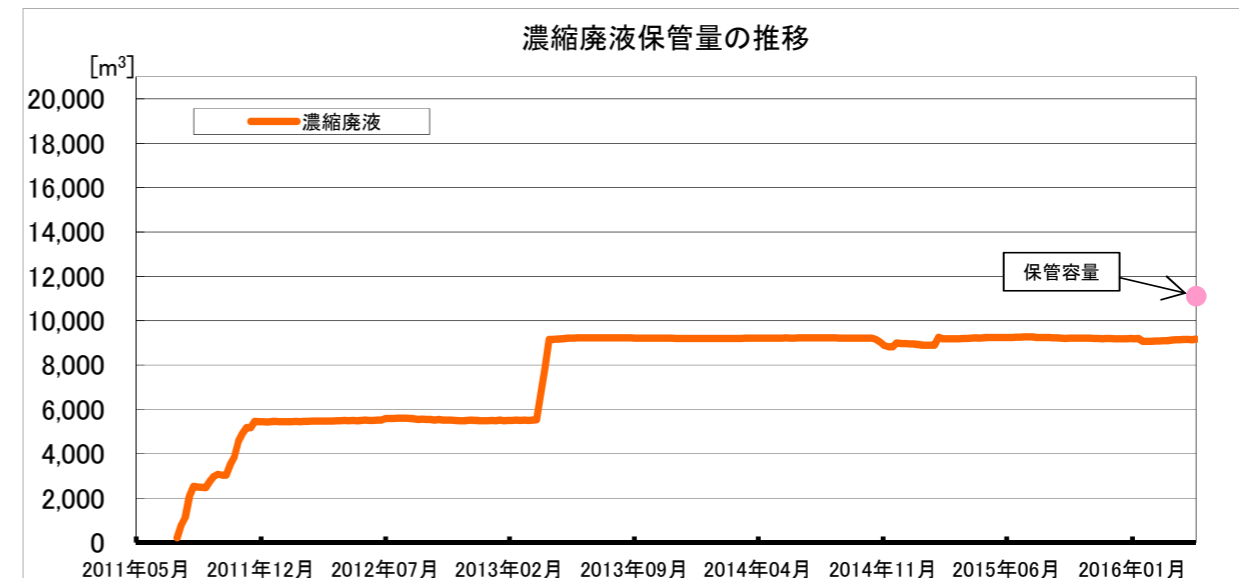
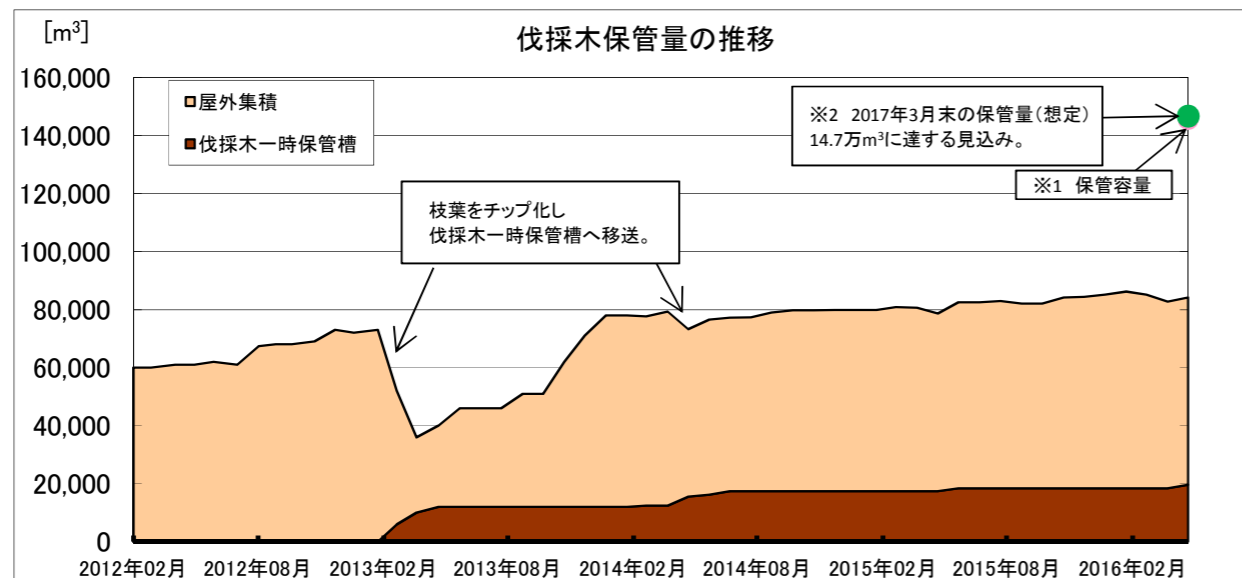
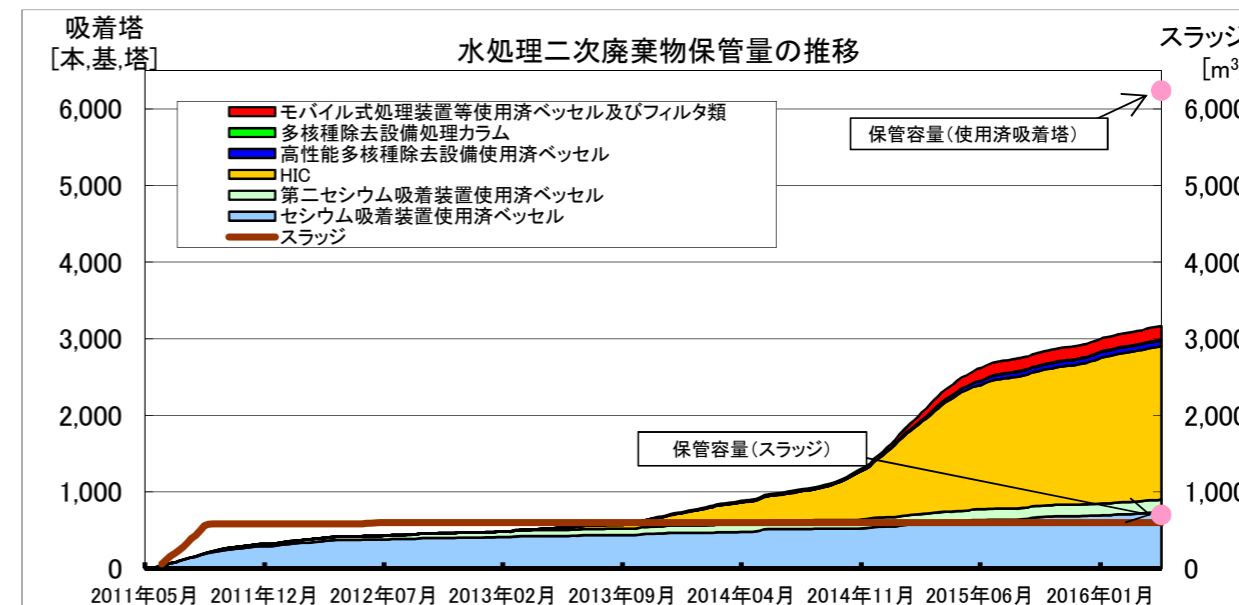
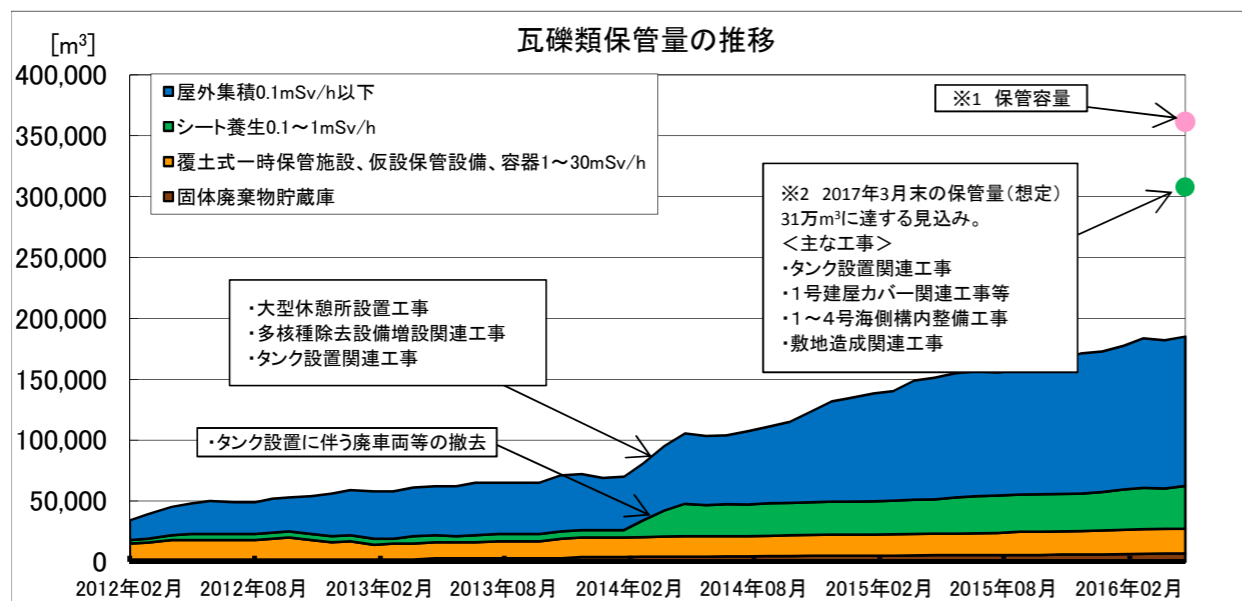
※1 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。
 ※2 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。
 ※3 主な変動理由: ①フェーシング工事 ②タンク設置関連工事 ③1~4号建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ④破砕コンクリートの再利用 ⑤エリア整理 ⑥焼却対象物の受入
 ⑦水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)の保管 ⑧瓦礫一時保管エリアP拡張工事 ⑨チップ化処理による枝葉の受入 ⑩焼却処理 ⑪使用済保護衣等の受入
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2016.5.19時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2016.4.21)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
水処理二次 廃棄物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済バessel	734 本	+8 本	3165 / 6239 (51%)	・吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日)	
		第二セシウム吸着装置使用済バessel	164 本	+2 本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,153 基			+13 基
			増設	852 基			+14 基
		高性能多核種除去設備使用済バessel	高性能	73 本			0 本
		多核種除去設備処理カラム	既設	9 塔			0 塔
モバイル式処理装置等使用済バessel及びフィルタ類		180 本	+2 本				
廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ		597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。	
濃縮廃液タンク	濃縮廃液		9,169 m ³	+31 m ³	9169 / 11100 (83%)	・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) ・H2エリア(9,700m ³)の撤去計画が認可。(2015年10月1日) これまで、8,900m ³ を供用廃止。 ・保管量に「タンク底部~水位計0%の水量(DS)」を含んでいない。(約100m ³)	



瓦礫類・伐採木・水処理二次廃棄物・濃縮廃液・使用済保護衣等の保管量推移



※1 瓦礫類・伐採木の保管容量は、実施計画(2015年7月17日認可)の保管容量を示す。
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の2016年度末の保管量(想定)は、2015年7月の予測値。